

鳥獣保護管理捕獲コーディネーター

鈴木 淳

かさなりデザイン合同会社

対象鳥獣

イノシシ

活動地域

宮城県
利府町

● 事業内容

まちぐるみで取り組む鳥獣被害対策

■ 事業の背景

東北地方は、長らくイノシシやニホンジカなどの生息域が限定的であったことから、一部を除いて、鳥獣被害に関してはあまり馴染みのない地域であった。しかし、近年の分布域の拡大に伴って被害発生地域も拡大しており、対策の技術的な普及や体制の整備が急がれている。

一方で、東北地方は人口減少時代に突入した日本の中でも最も顕著な地域であり、農村集落の担い手の減少や集落そのものの消滅、産業の変化など、鳥獣の生息状況と同時に人間社会も大きく変化している複雑な状況となっている。

これらのことから、対策を進めるにあたっては、画一的な方法や先進地域の単純な移植だけではなく、地域産業や将来を見据えた上での地域に合った手段の選択、計画が必要となっている。

宮城県利府町においても、近年イノシシやツキノワグマなどによる農作物被害や住宅地への出没が増加しており、農業者も年々減少してきている。その一方で、仙台市圏のベッドタウンとして、野生動物に馴染みのない移住者が増加していることから、鳥獣被害対策への理解促進や、対策に係わる人材の確保が課題となっている。

実施した内容

鳥獣被害対策に係わる人材の育成や、地域住民の鳥獣被害対策に関する理解度向上のため、以下を実施した。

◆ 現地調査・指導(図1、2)

住民や役場などからの要請を受けて、農業者への電気柵や侵入防止柵の設置指導、捕獲従事者への技術指導、住宅地への出没対応などを行い、現状や課題、取り組むべき対策などについて情報共有した。

◆ 普及啓発活動(図3、4)

非農家などの野生動物に馴染みのない住民への普及啓発や、情報収集、共有を目的とした活動を行なった。大型商業施設などでのイベントで野生動物の出没情報マップを掲示し、参加者に被害や目撃などの情報をシールで貼ってもらうことで情報収集した。また、くくりわなの設置体験を通して、狩猟に興味を持つきっかけづくりを行なった。



図1 電気柵の設置指導



図2 捕獲技術指導



図3 くくりわな（赤矢印）の設置体験

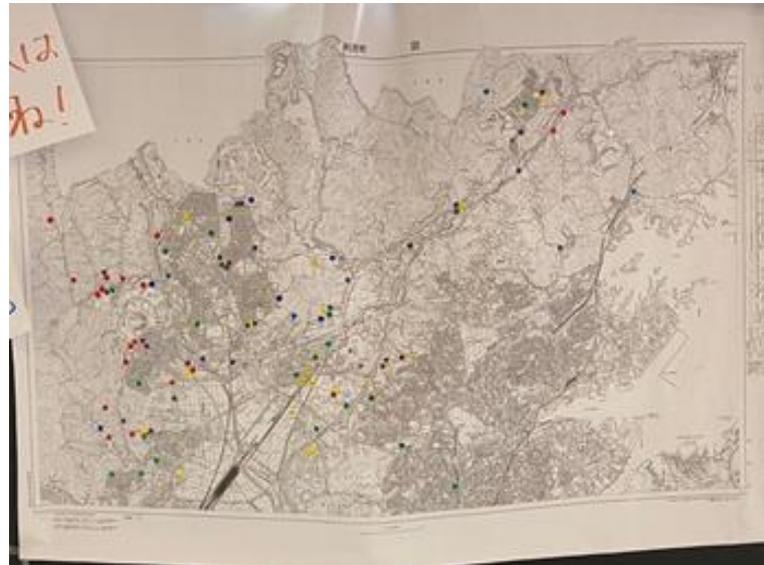


図4 イベントでの野生動物出没情報マップ掲示
（赤：イノシシ、青：ツキノワグマ、緑：ハクビシン、
黄：キツネ、紫：タヌキ、灰：カモシカ、金：その他）

事業の成果

利府町における住民や捕獲従事者への鳥獣被害対策に関する指導を通して、知識の普及や捕獲技術の向上のためには、継続的な普及啓発が必要であることを役場に伝えることができた。また、出没情報マップでは、これまでに役場で得られなかった多くの情報を集めることができ、直接的な被害（農作物被害等）を被っていない地域住民は、野生動物を目撃したとしても、誰に連絡すべきなのかが分からないことが多い点を課題として認識できた。このように、利府町では鳥獣被害やその対策に関する情報に触れる機会を幅広くつくることで、身近に起きている問題を地域共有の問題として周知することができた。

鳥獣被害対策は、個人と地域の両側の視点から捉えていくことが重要であるが、問題が大きくなるにつれて関わる人が増えていき、情報共有や合意形成が難しくなっていく。そのため、様々な情報を地図で“見える化”することで、地域間で同じ情報をわかりやすく共有することが重要である。これによって、地域の状況を客観的に捉えることができるようになり、問題点を浮き彫りにすることや、共同で取り組むべき範囲がイメージしやすくなる。個人や地域が、それぞれに合った対策を選択できるように地域の情報を“見える化”し、住民と行政が一緒になって考えやすい環境を整えていくことがコーディネーターの役割の一つである。